

第9章 気候変動の影響に対する施策（適応策）

「適応策」は、気候変動の影響に対して、被害を防止・軽減するための対策です。

宜野湾市においても、地球温暖化が進むことにより、海水面の上昇による高潮浸水、集中豪雨の発生による地すべり、急傾斜地の崩壊の危険性が高まっています。また、災害が発生した場合に備えて、必要最小限の用水の確保も考えておかなければなりません。また、亜熱帯に属する沖縄県は、地球温暖化が進めば、次第に熱帯地方の気候に近づき、熱帯地域の感染症が侵入してくる懸念もあります。

このように、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを抑制する「緩和策」の実施とともに、気候変動の影響に適切に対応する「適応策」にも、しっかりと取り組むことが求められます。

気候変動に伴い発生するさまざまな影響に対して、各主体の取組が不可欠であることから、想定される影響に対して各主体別の取組を整理します。

表 9.1 適応策一覧

適応策分野	取組
自然災害・沿岸域	高潮浸水想定区域対策
	地すべり警戒区域対策
	急傾斜地警戒区域対策
	台風や集中豪雨への備え
健康	熱中症対策
	ジカ熱、デング熱への対策
水環境・水資源	湧水と井戸を活用した非常時の中水 ^{*18} 確保

*18：中水

トイレ洗浄水や散水用水などの雑用水として利用すること。上水と下水の中間に位置することから中水と呼ばれる。

9.1 自然災害・沿岸域分野への対策と取組

(1) 防災情報の提供

台風や集中豪雨、高潮に備えたハザードマップの作製・整備等のソフト対策を実施するとともに、防災情報の提供を行います。

(2) 自主防災組織の整備・防災教育の実施

地域における自主防災組織の強化を促進するとともに、地域の連携を深めることができるよう、災害時の要援護者を含む防災訓練を実施します。

(3) 避難場所におけるエネルギーの確保

分散型エネルギーなどの災害に強いエネルギーシステムの構築等、公共施設において、コージェネレーションシステムなどの多様な非常用電源の整備を検討します。



図 9.1 宜野湾市総合防災マップ*19

*19：宜野湾市防災マップ

宜野湾市では、沖縄県が公表している津波浸水想定区域や土砂災害などの危険箇所、避難所や避難路を加えた総合防災マップを作成しました。

総合防災マップは、市役所総合案内や市民防災室窓口で配布しております。また、ホームページのトップ画面「いざという時」へ、防災マップ（地図情報システム）を公開しておりますのでご活用下さい。

9.2 健康分野への対策と取組

(1) 熱中症の予防などの健康対策の推進

熱中症対策マニュアルの普及啓発や熱中症予防に向けた情報提供など、熱中症を防止・軽減する健康対策の実施を行います。

(2) 蚊の防除対策

ジカ熱やデング熱、マラリアなどの感染症を媒介する蚊の防除について情報提供・発信などを行い、蚊が繁殖しにくい環境づくりの普及啓発を推進します。

9.3 水環境・水資源分野への対策と取組

(1) 湧水と井戸を活用した非常時の中水確保

関係部課と連携して、災害時に中水（トイレ用水、散水用水などの雑用水）として活用できる湧水と井戸の現況の把握に努めます。

さらに、地域や管理者と協働し、湧水と井戸の周辺整備及び保全に努め、市民への周知に取り組みます。

コラム：「適正な室温 28℃（目安）」について

夏の暑い日でも、軽装などによって「適正な室温」で快適に過ごす取組に、「クールビズ（COOL BIZ）」があります。

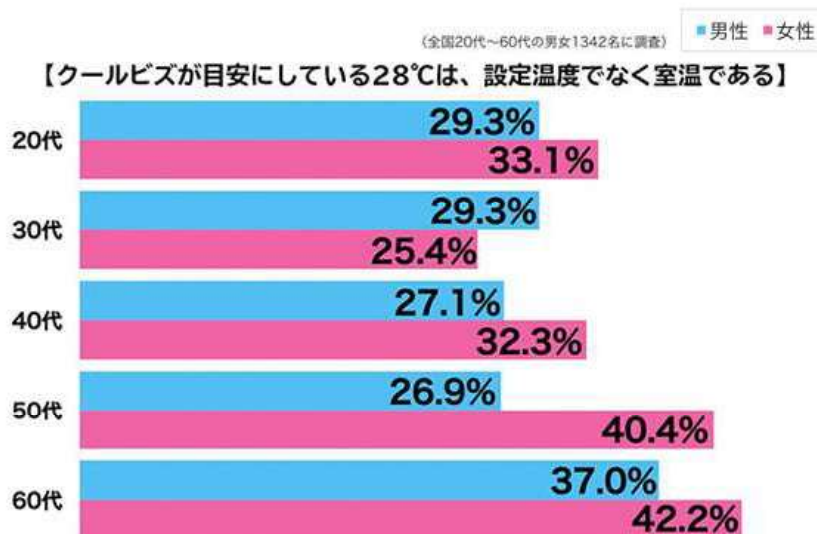
クールビズでは、「適正な室温」の目安を 28℃としています。冷房時の外気温や湿度、建物の状況、体調等を考慮しながら無理のない範囲で冷やしすぎない室温管理を呼び掛けています。

なお、クールビズで呼び掛けている「28℃」とは、冷房の設定温度のことではなく、「適正な室温の目安」なので注意が必要です。

環境省の調査では、全国 20 代～60 代の男女 1,342 名を対象に、「クールビズ」が目安としている「28℃」が、冷房の「設定温度」ではなく「室温」であることを知っているかを調査してみたところ、室温であると正しく理解しているのは全体の 32.3%しかいないという結果でした。

熱中症対策には、こういった取組の正しい理解も重要です。

*下記グラフは、クールビズが目安にしている 28℃を、設定温度ではなく室温であると正しく理解している人の割合



（出典）環境省クールビズ特設サイト